

「液肥利用の実際と課題 福岡県大木町、各地の事例から」

長崎大学環境科学部 中村 修

※液肥普及のポイントは「自然科学的技術ではなく、社会的手法」  
 課題は、社会的手法、人の育成にどれだけ「投資」ができるか

図 消化液から、農家が誇りも持てる肥料 への展開		
より求められる商品 (需要の多い商品)		⑪循環授業・循環シンポジウム 「農家が誇りも持てる肥料」
		⑩農産物の販売・地産地消
		⑨農産物ブランド化
		⑧価格設定 「農家が得をする肥料」
		⑦液肥利用組合
		⑥散布サービス
		⑤成分調整
		④施肥管理 「農家が使える肥料」
		③先進地見学
		②実証栽培
①肥料登録 「肥料」		
ごみ (需要のない商品)		消化液のまま

- 1 メタン液肥とは  
 各地の事例から、成分、散布方法などは確立している  
 論文、データ、散布マニュアル、映像などは十分ある  
 参照：埼玉県小川町 NPO 風土 桑原衛
- 2 大木町の取り組み  
 生ごみ堆肥ではなく、「メタン+液肥」の提案
- 3 築上町に学ぶ  
 液肥のパイオニア 数々の失敗を経験に
- 4 南丹市に学ぶ

5 みやま市の取り組み (2018年稼働予定)

2013 高菜の栽培実験

2014 米、なす、タケノコ、れんこんの栽培実験→実験という名の「液肥体験」  
本体プラントの横に、小型プラント、液肥栽培実証農地を設置し  
研修をおこなう

6 行政の推進体制

岡山県真庭市、 沖縄県石垣市

7 安価なメタンプラント+液肥

民間の処理事業者、 養豚農家、 人口5万人以下の自治体

参考文献：NAOSITE でPDFでダウンロード可能 (中村、修) で検索

バイオマス循環事業の多面的効果に関する研究 2014-10

長崎県の廃棄物広域処理に関する経済評価の試み 2014-05

地方自治体における生ごみ資源化状況に関する全国調査 2011-06

筑後市の「ごみ分別授業」の実証と考察 2011-05

福岡県築上町におけるし尿液肥化事業について 2010-10

行政主導によるメタン発酵施設の事例調査 2008-10

循環型社会形成に向けた有機液肥の水田利用の可能性 2005-01

著書

成功する生ごみ資源化 農文協

連絡先：中村修 osamu.nakamura@nifty.ne.jp

長崎大学環境科学部

〒852-8521 長崎市文教町1-1-4